

7. 将来の財政見通し

7-1 事業計画

ロードマップに基づく今後 20 年間の事業計画及び事業費は、次表及び次図に示すとおりです。

今後は、三口浄水場の耐震化や機能増強による拡張整備をはじめ、管路を中心とした老朽化施設更新や普及率向上を図る管路拡張整備等、これまで以上に多額の施設投資が必要になるものと見込んでいます。

表 7.1.1 事業計画

基本施策	推進方策	具体的施策	地区	整備	事業費 (千円)	優先度	短期					中期				長期		
							H.31	H.32	H.33	H.34	H.35	H.36	H.37	H.38	H.39	H.40	H.41~50	
水質管理の 高度化	原水水質に適した浄水処理	浄水施設整備	土田	【新設】	57,100	◎				→								
			百谷	【新設】	94,000	-				→								
			島	【新設】	135,000	◎			→									
	水質管理の 高度化	ろ過水濁度計設置	上曾木	【新設】	48,100	-											→	
			鴨良・山移	【新設】	48,100	-											→	
		浄水施設整備	守実	【新設】	193,000	-											→	
			草本・小屋川	【新設】	97,700	-											→	
水道基幹施設耐震化の推進	基幹施設の耐震化	浄水施設整備	旧上水地区 (三口・宮永)	【更新】 【新設】	8,241,400	○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
老朽化施設の更新 及び耐震化	電気・機械設備の計画的更新	電気・機械設備	旧簡水地区	【更新】	424,500	-	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
	老朽化施設の更新	土木・建築設備	旧簡水地区	【更新】	55,700	-	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
	管路の計画的更新及び拡張整備	管路	旧上水地区	【更新】 【新設】	7,691,200	-	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
合計					17,085,800													

※事業費は税抜き価格である。

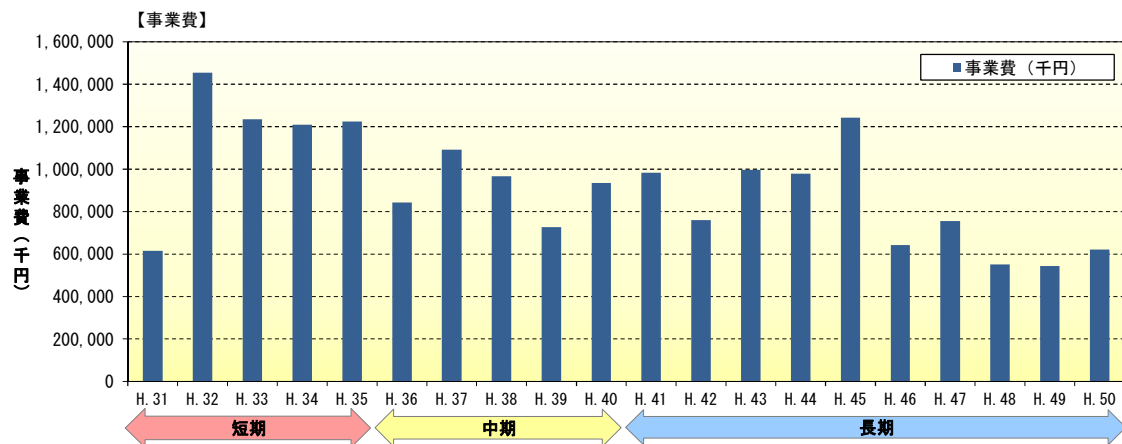


図 7.1.1 事業計画

7-2 財政収支見通し

これまでに示した事業計画に基づく将来 20 年間の財政シミュレーション結果は、次に示すとおりです。

収益的収支（図 7.2.1）については、現行の料金体制で黒字経営を持続し、安定経営を行うことが可能な見通しとなっています。

一方、資本的収支（図 7.2.2）については、これまで以上に施設整備への投資が必要となり、支出の大幅な増加が見込まれるため、財源の確保が重要となります。

この財源確保には、企業債の借入を想定していますが、これに伴い、企業債残高は平成 29（2017）年度の 61 億円から最大 5 億円程増加する見通し（図 7.2.3）であり、次世代の負担増加が示唆されます。

今後の水道事業経営においては、事業実施が可能な財源を確保しつつ、企業債残高の低減を図ることが望ましく、そのためには、継続的に経費削減に取り組むとともに、必要に応じて水道料金を見直すことも視野に入れ、安定した事業経営を行っていきます。

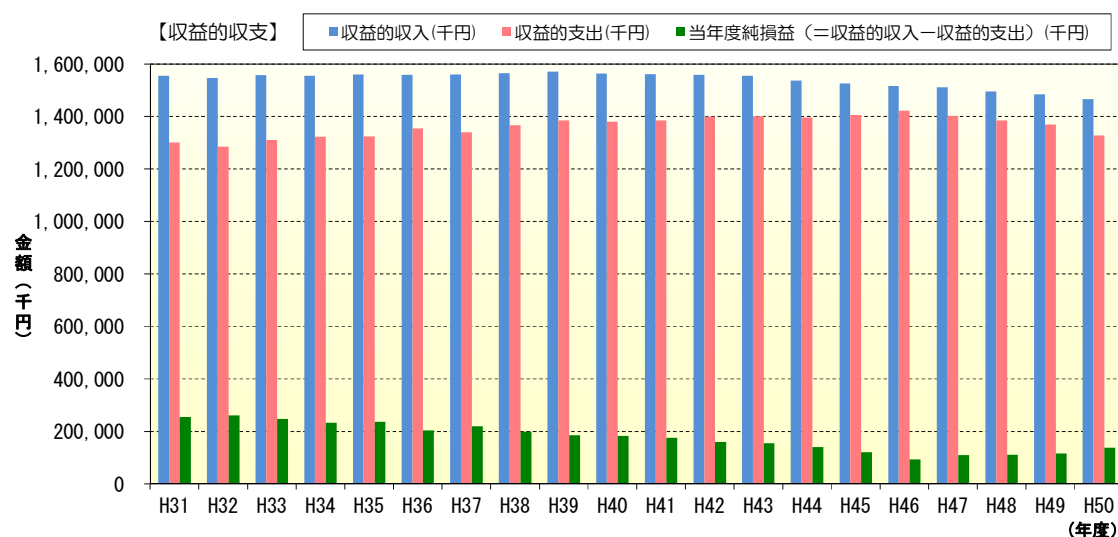


図 7.2.1 収益的収支の見通し

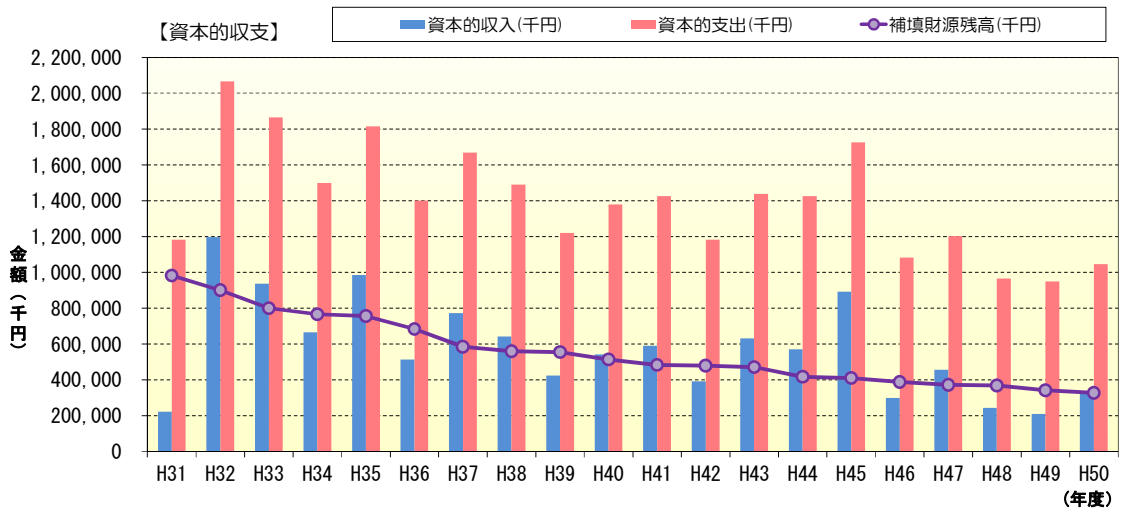


図 7.2.2 資本的収支の見通し

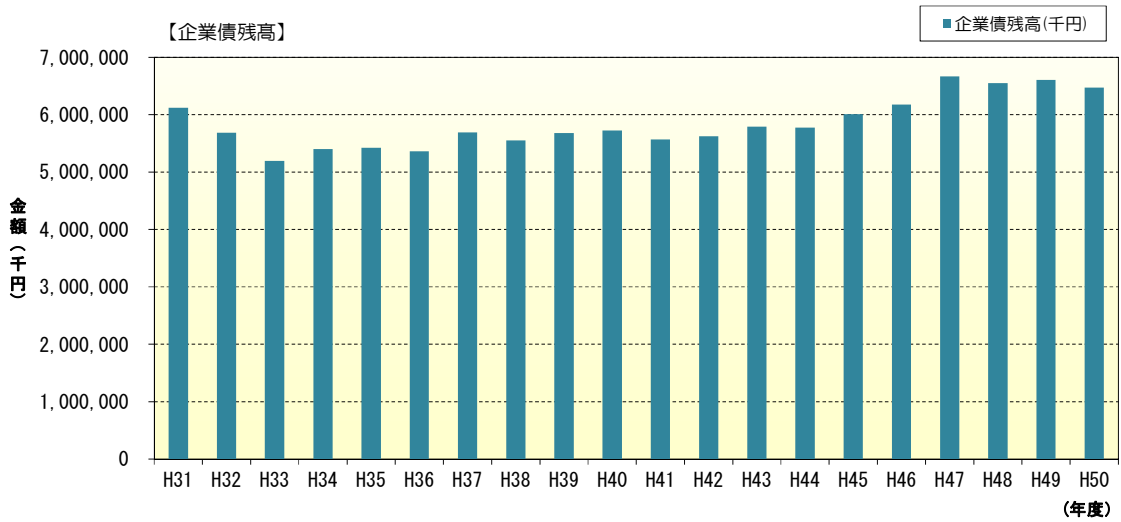


図 7.2.3 企業債残高の見通し